

## IAIA Special Symposium 報告

■日 程：2018年10月1日（月）～10月2日（火）

■場 所：ヒルトンクチン、マレーシア

■発表者：原科幸彦学長、橋本隆子副学長、笹谷秀光氏（学長プロジェクト2アドバイザー）、  
安藤崇専任講師、齊藤紀子専任講師

■内容（概要）：

### 1日目（10月1日）

---

#### （1）Keynote Speech

Dr. Hacking からは、インパクト・アセスメント研究の歴史的経緯が紹介され、今後インパクト・アセスメントを SDGs 達成のためにいかに活用できるかという問題提起がなされた。SDGs 実現に向けては、包括的・戦略的・統合的なアプローチが必要であることが指摘された。

原科学長からは、インパクト・アセスメントは欧州のみならずアジアでも考えられてきた概念であること、産業革命以降の経済成長に伴い Well-being の観点から重要性が増したこと、適切な経済社会活動のために人間活動をコントロールするものであることが説明された。また千葉商科大学では武士道精神に則り、レジリエント社会を目指して再生可能エネルギー活用の取り組みを進めていることが紹介された。

#### （2）Parallel Session A1

世界銀行、アジア開発銀行、JICA による国際協力分野での SDGs 達成の取り組み紹介がなされた。政府セクター・企業セクター間のパートナーシップ（PPP: Public Private Partnership）手法による、社会・環境・経済を統合したアプローチが重要であることが繰り返し指摘された。プロジェクト実施による負の影響を避け効果を最大化するために、世銀による Safeguards Policy に基づきステイクホルダーとの対話、情報公開、Advisory Committee 設置・アドバイスなどの施策を講じていることなどが紹介された。

#### （3）Parallel Session B1

Parallel Session A1 に引き続き、PPP にいかに社会的・環境的配慮を組み込むかということを中心に、報告と議論がなされた。民間金融機関による取り組みとして、三菱 UFJ 銀行による赤道原則の採択、同原則を実施していくための実践上の工夫、社会的・環境的リスクアセスメントの進め方などが紹介された。

#### （4）Plenary Session

日本での取り組み紹介として、福島第一原発における 3.11 以降の状況紹介、プロジェクト決定プロセスにおける市民参加を測定する指標に係る研究内容の紹介、再生可能エネルギーの活用に積極的な自治体の取り組み紹介がなされたほか、原科学長より千葉商科大学による RE100%大学に向けた取り組み紹介がなされた。

#### (5) Reception

参加者間の交流を深め、情報交換を行う場として会場近くのレストランにて Reception が開催された。

### 2日目 (10月2日)

---

#### (6) Workshop: Sustainability Assessment

IT 通信業界と石油業界の企業 2 社より、各社の SDGs への取り組み紹介がなされた。

GRI Standard や ISO26000、UN Global Compact などさまざまな国際基準がある中で、自社が取り組むべき分野・課題に焦点をあてて、これら国際基準を融合して取り組んでいること、他社によるベスト・プラクティスから学ぼうとしていること、自社の社員にもサステナビリティへの取り組みを理解してもらうように教育・トレーニング機会を積極的に設けていること、3 年ごとにマテリアリティ・アセスメントを実施していることなどが紹介された。

#### (7) Parallel Session C1

橋本副学長より「SDGs の達成に向けて、その進捗をいかにアセスメントするか」という問題提起がなされた。

笹谷氏より、日本における「結」や「三方良し」、伊藤園による耕作放棄地の再生と緑茶ビジネスなどを事例として SDGs の解説がなされた。セクター間のパートナーシップをもって SDGs に取り組むことが重要であることが指摘された。

インドネシア大学による Green Metric 推進の取り組み報告、マレーシアのビジネスコミュニティにおける CSR 理解に関する調査の報告に続いて、安藤専任講師・齊藤より大学の社会的責任 (USR) 活動を改善していくための社会的指標開発について、その研究進捗報告を行った。

#### (8) セッション登壇者とのランチ

Parallel Session C1 にともに登壇した Dr. Michael Chiam および数人のシンポジウム参加者と、原科学長・橋本副学長・笹谷氏・安藤専任講師・齊藤とでランチをともにし、ソーシャル・インパクト・アセスメント研究について意見交換を行った。今後の研究協力についても前向きに検討していくことなどが話し合われた。

#### (9) Parallel Session E1

途上国における SDGs 達成の方策について事例報告と議論がなされた。グローバリゼーションは成長のみならず格差の拡大を産んだこと、今後は (2007 年に世銀より提唱された) “Inclusive globalization” の概念が重要であることが指摘された。また市民参加、パートナーシップの重要性が改めて指摘された。

#### (10) Gala Party

クロージングとしてホテル内ホールにて Gala Party が開催され、参加者間で交流がなされた。

以上